国家ビジョン研究会主催シンポジウム
2012年11月29日

新しい農業の創造を図る:
食料基地構想とフードバレーの展開

本間正義
東京大学大学院農学生命科学研究科

日本の食料・農業をめぐる今日的課題

・農業生産の停滞と農業経営の零細性
・農業労働力の高齢化と労働力不足
・進まない日本の農地集約と規模拡大
・農政の課題：コメ減反、農地制度、農協問題
・被災地東北の農業復興をどう実現するか
・TPP問題にどう対処するか
・食料自給率と食料の安全保障、食の安全

成長産業としての農業の展開

- 優れた技術で高い付加価値を実現する農業者
- 消費者ニーズを取り込む商品開発農業者
- 地域の信頼で規模拡大を実現する経営者
- 生産者の意欲を高める新たな協業組織
- 新規就農者の独立を支援する農業経営体
- ネットワークを駆使し利益を上げる組織経営
- 耕作放棄地を復元し、過疎地を活性化する集団
- サイエンス・コントラクターで展開する精密農業

農業の成長と創造を阻むもの

- 霞ヶ関一律農政：

→平均値で全国をとらえ、伸びゆく人材の成長機会を奪い退出すべき零細農家を温存する政策を採り続けている

- 参入規制と農地制度：

→農地所有を農家に限り、農外からの参入を規制するため、農業投資が過小となっている

- 規模拡大を阻む農協：

→組合員数の維持と手数料確保が目的の農協は、零細農家と高価格の維持を政府に求めざるを得ない

- 国際化対応の遅れ：

→関税の削減撤廃等の国際化に対応できないため、内向き志向となり、日本の農産物の輸出機会が奪われている

２１世紀型食料基地の構築

提言１

国内外の食料需要に応えるためには国内農業の体質強化が不可欠であるが、そのための戦略として、農地の有効活用と農業投資を重点的に行なう地域を特定し、日本の食料基地を形成する。大規模な農地の集積を行い高度な技術体系を導入し、低コスト高品質な生産システムを確立する。また、国際市場に迅速に対応するマーケティング機能を強化する。やがては輸出基地ともなる日本の食料基地を構築すべきである。

食料基地で100ha経営体を1万育成

提言2

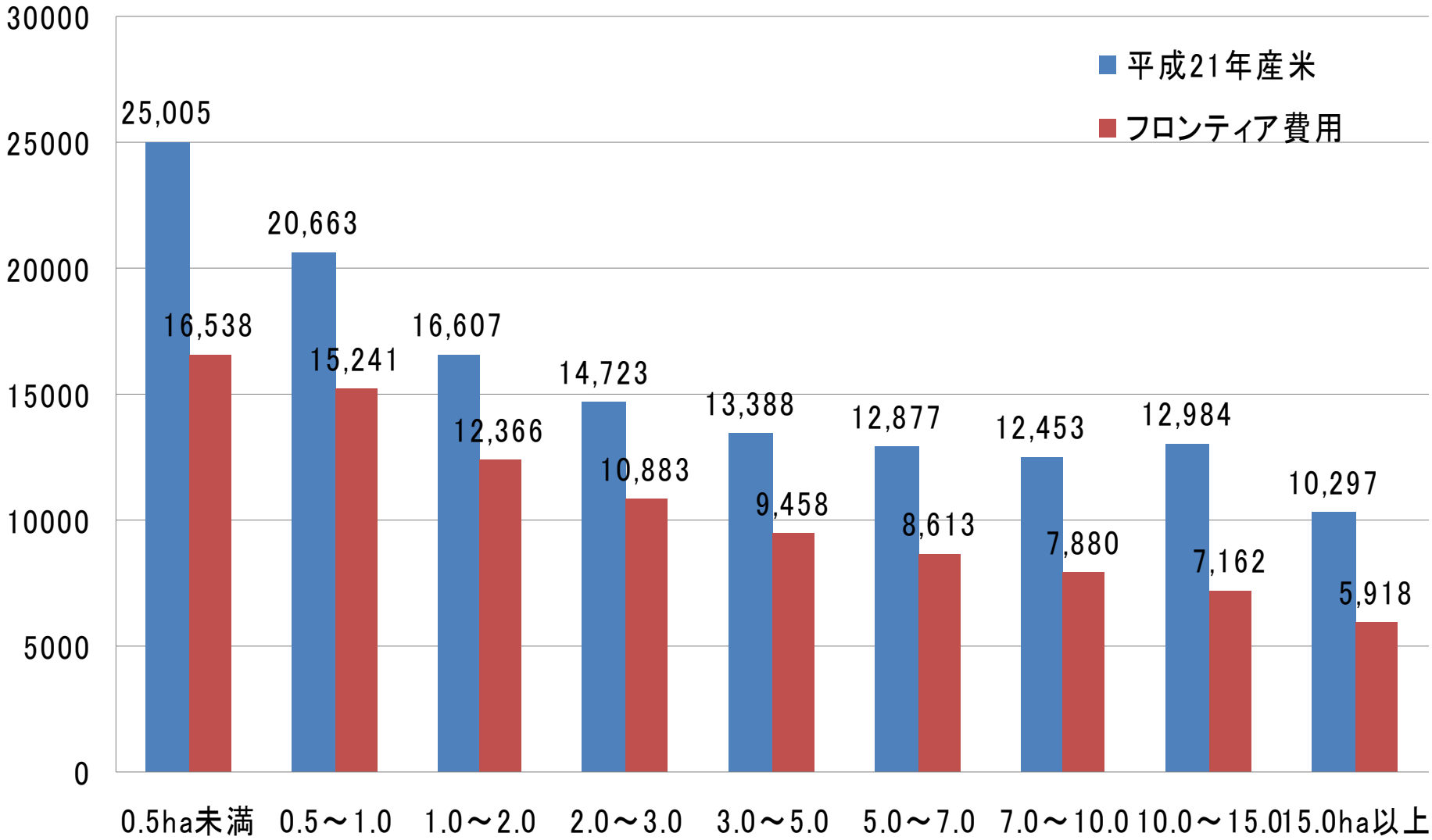
食料基地を構築するためには、大規模な農業経営を育成しなければならない。現在約460万ヘクタールの農地の3分の1にあたる150万ヘクタールを食料基地としてインフラ整備や環境対策を重点化し、100ヘクタール規模の農業経営を展開する経営体を1万程度育成する。食料基地の発意は市町村またはその連合体が行なうが、そこで行なわれる農業の経営形態は自由であり、他産業からの新規参入や経営参加を促す。

食料基地は経済特区で実現

提言３

食料基地は「経済特区」とし、農地法など現在の農地規制の適用除外とする。農地の所有・利用ともに自由な権利移動を可能とする一方で、持続的な農業を展開するため一定期間（例えば30年）は農地以外への転用を完全禁止し、転用期待による農地所有を排除する。また、コメなどの生産調整への参加・不参加も自由とする。さらに、食料基地における農地には耕作放棄の禁止など農地の適正利用義務を課す。

コメ生産費削減の可能性（60kg当たり円）



資料：本間正義「21世紀政策研第90回シンポジウム資料」

新しい農業の創造
－食と農のクラスターの形成－

- 産業クラスターは、企業、大学、研究機関などが地理的に集積し、相互の連携・競争を通じて新たな付加価値やイノベーションを創出する基盤
- 地域にある素材・人材を活かし、地域に根ざした研究機関や企業と連携することによる内発的経済発展への取り組みが重要
- 食料基地のいくつかに、産業や企業を超え、成長センターとなる食と農のクラスターを形成し、地域活性化・発展の基盤とする
- 食と農は生産から消費までのサプライチェーン、バリューチェーンが多様で、様々な展開が期待できる

食と農のクラスター成功の条件

1）要素条件：熟練労働者や社会資本等の生産要素が揃っているか、インフラが整っているか、地域で作り出し育成した専門性の高い資源が利用可能か

2）需要条件：製品・サービスの市場規模と「質」に対する需要が十分あるか、買い手の性質や価値観、嗜好の情報の収集と分析が重要

3）関連産業・支援産業：当該産業に製品・サービスを提供する関連産業や、その産業を支援して製品販売を担う産業に競争力があるか

4）企業戦略及び競争環境：企業の設立・組織・管理などを支配する国内の経営条件と、国内に切磋琢磨して競争するライバル企業があるか

日本でのフードバレーの展開

1）要素条件：大学、研究機関の有効活用と再編、海外からも人材を集め、ビジネスに取り込みベンチャー企業を創設、それらをスピンオフ的に発生させてイノベーションの創造を持続的なものにする

2）需要条件：日本の食品に対する高い評価をさらに分析し、海外市場でのニーズとその変化をフォローし、新たな商品開発を行う

3）関連産業・支援産業：食品関連産業の有機的再編と新たな結合、研究機関、インキュベーター、金融機関の集積（例：オランダ・ワーヘニンゲンのフードバレー）

4）企業戦略及び競争環境：日本では最も遅れており、国際市場で戦うためには、食品産業もこれまで棲み分け的に展開してきた環境を変える必要がある

日本農業の新たな創造のために

- 霞ヶ関平均値農政に依存しない農業の確立
  ☆地域の取組みをプロモートすべき地域農政
- 大型特区で自由な農業と異業種とのコラボ
  ☆農地を有効利用するなら規制適用除外
- 日本農業の3分割: 日本型農業の展開
  ☆食料基地農業、オランダ型農業、サービス農業
- 農業と地域活性化のためのリーダーの育成
  ☆異業種への派遣、海外で商社活動を学習
- 輸出志向で、海外の市場を開拓
  ☆コメはマーケットを世界に求め輸出産業へ

ご清聴ありがとうございました